

美術博物館

特別展「城下町飯田と飯田藩」
「城下町サポーター」養成講座での展示解説会



堀親昌が飯田藩の藩主として飯田入りして350年の節目の年に合わせて特別展「城下町飯田と飯田藩」を開催した。本展開催に際しては、展示期間中のイベントで参加者に解説等をするための「城下町サポーター」を募った。約20名の市民が登録し、展示解説会や飯田城の見学会で活躍した。

1 沿革

- 昭和58年 4月 「飯田市美術博物館準備事務局」を企画財政部に設置
- 昭和60年 4月 飯田市美術博物館準備事務局を企画財政部から教育委員会へ移行
- 10月 「飯田市美術博物館設立基本構想委員会」発足
- 昭和61年 3月 「飯田市美術博物館・日夏記念館基本構想」まとまる
- 4月 「飯田市美術博物館展示研究委員会」発足
- 9月 飯田市美術博物館建設にともなう飯田城址の発掘調査始まる
- 9月 柳田為正・富美子夫妻より「喜談書屋」の寄贈を受ける
- 昭和62年 6月 起工式
- 7月 美術博物館の付属施設として「柳田國男館基本構想」まとまる
- 12月 「飯田市美術博物館条例」設置される
- 昭和63年 4月 「飯田市美術博物館」として正式に発足する
- 4月 井上正館長就任
- 10月 落成式 一部公開始まる
- 11月 プラネタリウム投影開始
- 平成元年10月 8日 正式開館
- 10月 常設展示・柳田國男館・日夏耿之介記念館の公開始まる
- 平成2年 1月 須田剋太氏から同氏の作品寄贈を受ける
- 10月 飯田ロータリークラブより岩石園が寄贈される
- 平成5年 5月 電子顕微鏡装置を導入する
- 7月 上郷町との合併により、上郷考古博物館を分館とし、秀水美人画美術館を付属施設として包含する
- 平成6年 9月 井村英治氏より所蔵美術品(井村コレクション)の寄贈を受ける
- 平成8年 3月 藤本四八氏から同氏の写真作品の寄贈を受ける
- 平成9年 4月 高田由紀氏より所蔵美術品(岩崎新太郎コレクション)の寄贈を受ける
- 平成11年 3月 綿半野原総業株式会社より、綿半野原コレクションの寄贈を受ける
- 5月 熊谷みづほ氏より熊谷好博子染色作品の寄贈を受ける
- 平成14年 9月 文化庁の認める「公開承認施設」となる
- 10月 菱田春草の代表作品「菊慈童」を購入する
- 平成15年 5月 菱田春草作品「菊慈童」の購入ために「菊慈童の購入を願う市民会議」が前年9月から取り組んだ募金活動による、総額51,278,445円の寄附金を受ける
- 平成16年 3月 正宗太郎氏から正宗得三郎作品の寄贈を受ける
- 4月 追手町小学校化石標本室開設
- 12月 仲村良一氏から仲村進作品の寄贈を受ける
- 平成17年 2月 中2階を増設し学習室リニューアルオープン
- 10月 上村と南信濃村との合併により、上村山村文化資源保存伝習施設と付属施設山村ふるさと保存館ねぎや、および南信濃民芸等関係施設を包含する
- 平成18年 4月 井上正館長が退任し、新館長に滝沢具幸が就任
- 8月 第1回美博まつり開催
- 平成19年 3月 空調設備の熱源であるチラーの更新、ポンプや空調機の制御システム省エネ化、照明の省エネ改修および電力管理システムを導入する
- 4月 本年度から飯田市藤本四八写真文化賞事業を担当する
- 平成20年 4月 上町活性化委員会を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする

- 6月 開館20周年記念式典、記念講演会開催。あわせて「田中芳男の胸像等制作を願う会」より胸像の寄贈を受けて除幕式を開催する
- 6月 美術博物館ロゴマーク決定
- 6～10月 開館20周年記念として記念式典ならびに特別陳列・企画展を開催
- 7月 びはく年間パスポート会員を募集開始
- 11月 開館20周年記念第1回びはく学芸祭「伊那谷の自然と文化」開催
- 平成21年3月 ロビー空間を無料とする
- 平成22年4月 財団法人飯田市南信濃振興公社を南信濃民芸等関係施設（遠山郷土館）の指定管理者とする
- 平成23年3月 プラネタリウムリニューアルオープン（記念イベント開催）
- 平成25年3月 遠山郷土館の大規模展示更新
- 4月 株式会社上村振興公社を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 平成27年3月 菱田春草生誕140年展・菱田春草生誕地公園完成
- 平成28年11月 柳田國男館が国登録有形文化財に登録される
- 平成29年3月 笹本千草氏から菱田春草未完成作品の寄贈を受ける
- 4月 飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プランを策定
- 9月 菱田春草記念室常設展示を開始
- 平成30年12月 株式会社大空企画を上村山村文化資源保存伝習施設「天伯」、付属施設山村ふるさと保存館「ねぎや」の指定管理者とする
- 令和元年7月 自然・文化展示室リニューアルオープン、自然・文化トピック展示がスタートする
- 令和3年4月 文化財保護活用課が上郷考古博物館内に移転し、上郷考古博物館および付属施設の秀水美人画美術館の運営担当課となる

2 展覧会

- 昭和63年度 特別陳列「郷土の近代彫刻・工芸」（10月）・企画展「児童生徒期の絵心」（10月）・企画展「写真で見る飯田城から美博まで」（10月）・企画展「雑木林」（11月）
- 平成元年度 第42回長野県美術展（9月）・開館記念特別展「菱田春草-空間表現の追求-」（10月）・企画展「風越山の自然と文化」（10月）・特別陳列「所蔵品展」（10月）・特別展「サラ・ムーソン」（12月）・企画展「子どもたちの世界」（1月）・企画展「日夏耿之介展-生誕100年特別陳列-」（2月）・第4回中央出品作展（2月）
- 平成2年度 企画展「知られざる須田剋太の世界」（4月）・二科長野支部展（4月）・特別陳列「デスマスチルス大白歯発見！」（5月）・特別陳列「信州伊那郡之絵図・伊那郡菌部・本草図彙」（6月）・企画展「伊那谷の昆虫」（7月）・韓国のイメージ日本展・中国のイメージ展（8月）・第43回長野県美術展（9月）・特別展「佐竹蓬平展」（10月）・企画展「紙の文化」（1月）・企画展「日夏耿之介展-その書画と遺愛の品々」（2月）
- 平成3年度 現代フランス版画展（4月）・企画展「色彩にひそむ生命感 須田剋太の抽象」（5月）・企画展「伊那谷の災害-水と土砂の猛威-」（6月）・特別展「伊那谷の人形芝居」（7月）・長野県工芸展（9月）・特別展 春草没後80周年記念「天心傘下の巨匠たち」（10月）・第44回長野県美術展（11月）・企画展「洋画の百年展」（11月）・第5回中央出品作展（1月）・企画展「日夏耿之介回顧展」（2月）
- 平成4年度 特別展「ほとばしる生命・画業50年 須田剋太展」（5月）・企画展「氷河期の生き残り-ニホンカモシカ-」（6月）・特別展「帰国記念展 原田泰治アメリカに行く」（8月）・企画展「柳田國男と信州」（8月）・第45回長野県美術展（8月）・企画展「国際宇宙記念 移動

- 宇宙展」(9月)・信州春陽展(9月)・企画展「バード・イン・アート」(10月)・企画展「伊那谷の仏教文化Ⅰ-瑠璃寺の秘宝-」(10月)・光風会工芸部長野会展(11月)・企画展「国立民族学博物館所蔵オーストラリアの先住民」(3月)・企画展「笠岡市立竹喬美術館交換展 小野竹喬展」(3月)
- 平成5年度 企画展「宇宙開発展」(5月)・企画展「ベルギー・日本交流版画展」(5月)・企画展「化石が語る富草の海」(7月)・特別展「北斎漫画の世界」(7月)・企画展「日夏耿之介回顧展Ⅳ」(9月)・第46回長野県美術展(10月)・企画展「浜松市美術館所蔵品展」(10月)・第6回中央出品作展(2月)・特別展「白隠」(3月)
- 平成6年度 企画展「生誕120周年記念 菱田春草展-郷土に残された作品を中心に-」(4月)・企画展「伊那谷の身近な生き物たち」(6月)・企画展「おかいこさま」(7月)・特別展「イタリア・謎と神話」(8月)・第47回長野県美術展(9月)・特別展「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」(10月)・第5回光風会工芸部明日へのかたち展長野展(11月)・長野県博物館協議会巡回展「宮坂勝とその周辺」(1月)・特別陳列「江戸期の郷土絵画-原蓬山を中心に」(3月)
- 平成7年度 特別展「ベン・シャーン」(4月)・企画展「活断層と伊那谷の生い立ち」(7月)・日中友好版画交流展(9月)・第48回長野県美術展(9月)・特別展「飯田商家の風雅 井村コレクションの精粹」(10月)・第7回中央出品作展(2月)・企画展「伊那谷の仏教文化Ⅱ」(11月)・企画展「豊橋市美術博物館所蔵品展」(3月)
- 平成8年度 第6回南信一水会出品作品展(6月)・企画展「鉱物の世界-中平豊氏コレクションを中心に-」(7月)・寄贈記念展「藤本四八展-日本の美を求めて-」(7月)・第16回長野県工芸展(9月)・第49回長野県美術展(9月)・特別展「原弘」(9月)・特別展「神々の訪れ-天竜川流域の芸能の面-」(11月)・特別陳列「関コレクション-世界の蝶-」(1月)
- 平成9年度 企画展「チェコ・リトアニア・日本の現代版画交流展」(4月)・飯田市制60周年記念特別展「生命史20億年」(7月)・第50回長野県美術展(9月)・特別展「伊那谷の馬 科野の馬」(10月)・特別展「藤本四八展-アトリエの中の画家たち/法隆寺」(11月)・特別展「熊谷守一展」(1月)・第8回中央出品作展(2月)・特別陳列「富岡鉄斎と安藤耕斎」(2月)・特別陳列「飯田城と飯田城主」(3月)
- 平成10年度 開館10周年記念特別展「天心傘下の巨匠たちⅡ」(4月)・同特別展「長谷川コレクション展Ⅰ-ゾウ化石の発掘から復元まで-」(7月)・同特別展「人形の魔術師 川本喜八郎展」(7月)・同特別展「岩崎新太郎コレクション展」(9月)・同特別展「天竜川展」(10月)
- 平成11年度 特別陳列「長谷川コレクション展Ⅱ」(7月)・特別陳列「伊那谷の人形芝居のかしら①-伊豆木人形-」(7月)・特別陳列「富本銭と信濃の皇朝十二銭」(8月)・第52回長野県美術展(8月)・特別展「日本博物館の父 田中芳男展」(9月)・特別展「江戸南画の潮流Ⅰ-谷文晁と鈴木芙蓉-」(10月)・企画展「藤本四八展-三熊野」(2月)
- 平成12年度 寄贈記念特別展「綿半野原コレクション展」(4月)・特別展「チョウとガの魅力」(7月)・特別陳列「伊那谷の人形芝居のかしら②-桐林人形-」(7月)・特別陳列「日夏耿之介の眼Ⅰ-故郷への憧憬-」(8月)・寄贈記念展「熊谷好博子」(10月)・特別陳列「長谷川コレクションⅢ-動物の骨・現生の動物の頭骨や骨格標本-」(10月)・第1回現代の創造展(1月)・企画展「藤本四八-装飾古墳・鎌倉むさしの仏たち」(2月)
- 平成13年度 特別展「子供と楽しむ動物画展」(5月)・特別陳列「伊那谷の人形芝居のかしら③-黒田人形-」(7月)・第54回長野県美術展(9月)・特別展「聖徳太子絵伝が語るもの」(10月)・特別展「南アルプス-形と成り立ち-」(10月)・特別陳列「長谷川コレクション展Ⅳ-日本最古のオオカミ類の化石-」(12月)・第2回現代の創造展(3月)
- 平成14年度 特別展「化石芸術」(7月)・特別展「須山計一」(9月)・特別展「伊那谷の文化財-飯田下

- 伊那の特質を探る-」（10月）・特別陳列「城田孝一郎-寄託作品より-」（11月）・第3回現代の創造展（3月）
- 平成15年度 新収蔵記念 菱田春草展「菊慈童・自然と人間のフュージョン」（4月）・特別展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展とスロヴァキア絵本芸術の巨匠たち」（7月）・特別陳列「自然の不思議-色から探る鉱物の世界-」（7月）・特別展「平山郁夫コレクション-ブッダの生涯とガンダ-ラをめぐる人びと-」（8月）・第56回長野県美術展（9月）・第4回現代の創造展（2月）・特別陳列「飯田のお練り祭り-よみがえる豪華絢爛な祭礼絵巻-」（2月）
- 平成16年度 企画展「ひと・むし・たんぼ」（7月）・企画展「平和の使者『長野絹子と青い目の人形』展」（7月）・寄贈記念特別陳列「正宗得三郎」（8月）・企画展「江戸時代の好奇心-飯田・市岡家の本草学と多彩な教養-」（10月）・特別展「京都の日本画」（11月）・第5回現代の創造展（3月）
- 平成17年度 寄贈記念特別陳列「飯田つむぎのころ-広瀬忠一の織物-」（6月）・特別陳列「原人がいた頃のシカ」（6月）・白山社奥社修理記念特別陳列「風越山とその信仰」（6月）・特別陳列「絵図でみる飯田城」（7月）・第58回長野県美術展（8月）・特別陳列「市岡家と万博の父田中芳男」（9月）・白山社奥社修理記念特別陳列「白山社奥社の扉絵」（9月）・特別展「中世信濃の名僧-知られざる禅僧たちの営みと造形-」（10月）・特別展「仲村進展」（11月）・第6回現代の創造展（2月）
- 平成18年度 特別陳列「日夏耿之介の眼-會津八一との出会い-没後20年」（4月）・特別展「富岡鉄斎展」（7月）・新飯田市誕生記念企画展「遠山大地変と埋没林」（7月）・同特別展「遠山霜月祭の世界」（10月）・特別陳列「集める楽しみ、調べる魅力-美博の自然コレクション展-」（11月）・第7回現代の創造展（2月）
- 平成19年度 特別陳列「桜-爛漫と愛惜の花-」（4月）・特別陳列「飯田大火60年-まちを変えた大災害をふりかえる-」（4月）・特別陳列「城田孝一郎の木彫」（6月）・飯田市制施行70周年記念特別展「水谷章人写真展」（7月）・企画展「中央アルプスを歩く」（7月）・第60回記念長野県美術展（10月）・飯田市制施行70周年記念特別展「絵画のなかの物語-菱田春草『王昭君』と日本美術院の歴史画-」（10月）・特別陳列「飯田町に書画あり-井村萬之助と岩崎新太郎」（11月）・特別陳列「骨は語る」（11月）・特別陳列「広瀬忠一の染めと織物」（1月）・第8回現代の創造展（2月）・特別展「藤本四八-美を追いかけた写真家の生涯-」（3月）・特別陳列「花を愛でる-うめ・もも・さくら-」（3月）
- 平成20年度 第6回藤本四八写真文化賞受賞作品展（5月）・開館20周年記念特別陳列「新指定文化財・新館蔵品展」（6月）・同特別陳列「田中芳男館蔵品展」（6月）・同企画展「ハナノキ湿地の自然史-赤き楓のかなでる交響楽-」（7月）・同企画展「信州喫茶事始-お茶をめぐる文化誌-」（7月）・同特別陳列「伊那谷の仏教絵画-聖徳太子絵伝と真宗の宝を集めて-」（9月）・同特別展「江戸南画の潮流Ⅱ 文晁・華山の新感覚」（10月）・第9回現代の創造展（2月）特別陳列「桜-春の歳時記-」（3月）
- 平成21年度 特別展「版画に見る印象派-陽の当たる午後、天使の指がそっと-」（4月）・特別陳列「日夏耿之介の眼Ⅲ-谷中安規の版画世界-」（6月）・企画展「こんなの見つけた！ ぼくのわたしの里山コレクション」（7月）・長野県在住日展日本画作家飯田展（7月）・特別陳列「天龍峽-神仙境と文雅の歩み-」（8月）・第62回長野県美術展（10月）・特別陳列「化石は語る-生物の進化と古環境-」（10月）・第10回現代の創造展（2月）・特別展「信州飯田領主堀侯-日本を動かした郷土の外様大名-」（3月）
- 平成22年度 第7回藤本四八写真文化賞受賞作品展（5月）・企画展「伊那谷の蝶蛾誌-井原道夫コレクション-」（7月）・特別展「ミュージアム・サミット美の競演-三遠南信交流展-」（9月）・特別展「獅子舞-ユーラシアから伊那谷へ-」（10月）・第11回現代の創造展（2月）・特

- 別展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」(3月)
- 平成23年度 特別陳列「三六災害50年-伊那谷を襲った大水害をふり返る-」(6月)・企画展「小惑星が衝突した御池山クレーター」(6月)・三遠南信文化交流展「黄金の世紀-きらめく古墳文化-」(7月)・特別陳列「菱田春草-新飯田市文化財指定作品特別公開-」(8月)・菱田春草没後百年記念特別展「春草晩年の追求-日本美術院と装飾美-」(9月)・瑠璃寺開基900年記念特別陳列「瑠璃寺と天台の秘宝」(10月)・第12回現代の創造展(2月)・特別陳列「桜-印籠と謡本、飯田の古桜」(3月)
- 平成24年度 特別陳列「飯田山本 竹佐中原遺跡の旧石器」(4月)・寄贈記念特別展「滝沢具幸-地のうた-」(4月)・第8回藤本四八写真文化賞受賞作品展(5月)・特別展「大恐竜展-謎の巨大恐竜スピノサウルス-」(6月)・柳田國男没後50年記念企画展「民俗の宝庫〈三遠南信〉の発見と発信-柳田國男・折口信夫ら先学による調査研究のあゆみ-」(9月)・企画展「洋画家・正宗得三郎-疎開の地・伊那谷へのまなざし-」(11月)・企画展「長野二紀展-新たな価値あるフォルムをめざして-」(11月)・企画展「伊那谷のやきもの-飯田市一帯の窯跡とその製品-」(12月)・第13回現代の創造展(2月)・特別陳列「愛宕稲荷神社の三十六歌仙絵馬と飯田の文化」(3月)
- 平成25年度 寄贈記念企画展「なんでもかんでもカタツムリ!-飯島國昭コレクション-」(6月)・特別陳列「遠山森林鉄道」(6月)・特別陳列「りんご並木50年」(7月)・第65回長野県美術展(9月)・特別展「伊那谷の日本画-春草没後の求道者たち-」(10月)・特別展「カミとホトケの交渉史-廃仏毀釈の爪跡-」(11月)・特別展「お金の博物誌-富本銭から六文銭まで-」(11月)・第14回現代の創造展(2月)・企画展「3.11東日本大震災3周年地震と地盤災害」(3月)・第1回小中学校郡展等優秀作品展(3月)
- 平成26年度 特別陳列「飯田上飯田の文化財-丘の上の魅力再発見-」(4月)・第9回藤本四八写真文化賞受賞作品展(5月)・企画展「古代の生きもの大集合」(7月)・企画展「南信州の煙火-火の芸術に魅せられた男たち-」(7月)・特別企画「親子で楽しむ菱田春草」(7月)・国史跡指定記念企画展「伊那郡衙-恒川官衙遺跡-」(10月)・第2回小中学校郡展等優秀作品展(2月)・第15回現代の創造展(2月)・菱田春草生誕140年菱田春草生誕地公園完成記念特別展「創造の源泉-菱田春草のスケッチ」(3月)
- 平成27年度 企画展「生きもの的小べや」(7月)・特別展「信州の祈りと美-善光寺から白隠、春草まで」(10月)・企画展「飯田下伊那考古学最前線-調査・研究速報-」(10月)・特別陳列「かるたで遊ぶお正月」(12月)・第3回小中学校郡展等優秀作品展(1月)・第16回現代の創造展(2月)・特別陳列「飯田城とお練り祭り」(3月)
- 平成28年度 第10回藤本四八写真文化賞受賞作品展(5月)・企画展「飯田市藤本四八写真文化賞の20年」(5月)・企画展「高山のダイナミズム」(7月)・特別陳列「没後200年 鈴木芙蓉のいま」(8月)・寄贈記念特別陳列「城田孝一郎の木彫」(10月)・田中芳男没後100年記念特別展「日本の近代化に挑んだ人びと-田中芳男と南信州の偉人たち-」(10月)・特別陳列「代田孝一郎の木彫」(10月)・第4回小中学校郡展等優秀作品展(1月)・第17回現代の創造展(2月)・特別展「創画会70周年記念展」(3月)
- 平成29年度 国史跡指定記念企画展「飯田古墳群-いいだは古墳の博物館-」(7月)・企画展「世界最南端のライチョウがすむ南アルプス」(7月)・特別陳列「没後210年 佐竹蓬平のいま-深まりゆく画境-」(10月)・第18回現代の創造展(2月)
- 平成30年度 特別陳列世界人形劇フェスティバル記念「伊那谷の人形芝居と大森運夫」(7月)・特別陳列「没後140年 原蓬山-伊那谷の漂泊画人-」(8月)・特別陳列「開山1300年記念 風越山-白山信仰の聖地-」(9月)・第19回現代の創造展(11月)
- 平成31年・令和元年度 文化トピック展示「飯田城と城下町」(7月)・自然トピック展示「南アル

- プスと中央アルプスの高山植物」(7月)・特別陳列「60年前の記憶 遙かなる遠山郷―塚原琢哉写真と民俗―」(9月)・巡回展「長野県の考古学―時代を映す“匠”の技―」(10月)・文化トピック展示「光明寺の文化財」(10月)・第20回記念現代の創造展(11月)・自然トピック展示「石ころから探る長野県の大地」(12月)・文化トピック展示「秋葉街道」(2月)
- 令和2年度 文化トピック展示「日夏耿之介と三島由紀夫、岸田國士」(5月)・特別陳列「生誕130年 日夏耿之介とともにめぐる飯田の町」(6月)・自然トピック展示「南アルプス石灰岩地の希少植物」(6月)・特別展「長野県信濃美術館交流名品展―東洋と西洋のうろわしき出会い―」(7月)・文化トピック展示「「国学」って何?」(8月)・企画展「竜丘児童自由画100周年展―自由の丘の熱き記憶―」(10月)・第21回現代の創造展(11月)・文化トピック展示「鍋の考古学-昔の人はどのようにコメを食べていたんだろう?」(11月)・自然トピック展示「飯田下伊那の鉱山と鉱石」(12月)・文化トピック展示「満洲は豊かだったか―入門・下伊那の満洲移民―」(3月)
- 令和3年度 自然・文化トピック展示「三六災から60年」(6月)・特別陳列「東山道と伊那谷の古代仏教文化」(7月)・没後110年特別展「菱田春草 故郷につどう珠玉の名画」(10月)・文化トピック展示「伊那谷の富士信仰―不二道信者松下千代と仲間たち―」(10月)・自然トピック展示「生き物を未来に伝える―美博の標本づくり―」(10月)・第22回現代の創造展(11月)・文化トピック展示「飯田下伊那における疫病」(12月)・自然トピック展示「春を彩るスマレ」(2月)・文化トピック展示「元善光寺のご開帳」(3月)
- 令和4年度 自然トピック展示「夏だ!虫だ!クワガタだ!」(6月)・文化トピック展示「飯田城から追手町小学校へ」(6月)・特別陳列「南アルプスジオパーク ジオサイトを巡る」(7月)・文化トピック展示「飯田町の学問と文化」(9月)・特別展「城下町飯田と飯田藩」(9月)・自然トピック展示「トンネルの中から地中をのぞく」(9月)・「第23回 現代の創造展」(11月)・文化トピック展示「伊那谷を襲った近世の2つの地震-遠山地震・安政東海地震-」(12月)・自然トピック展示「南アルプスのアンモナイト化石」(1月)・文化トピック展示「りんご並木と田中芳男―「りんごの町飯田」誕生―」(3月)・特別展「美術と風土―アーティストが触れた伊那谷展」(3月)
- 遠山郷土館トピック展示「国学ってなに」(4月)・「満洲は豊かだったか」(7月)・「児童自由画展」(10月)・「春を彩るスマレ」(1月)

3 施設の概要

□ 美術博物館

- (1) 場 所 飯田市追手町2丁目655番地7
- (2) 敷地面積 14,346.16㎡
- (3) 構 造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階、地下1階
- (4) 建築面積 3,813.21㎡ (延床面積4,938.16㎡)
- (5) 総工費 2,400,000千円
- (6) テーマ 基本テーマ「伊那谷の自然と文化」
美術部門：自然と人間のフュージョン（融合）
博物部門：きびしく豊かな自然とその中に生きる人間
- (7) 施設の内容
◎学芸空間：収蔵庫A・B・C、標本作成室、資料処理室、荷解室、石工室、燻蒸室、外来研究員室
◎利用者空間：常設展示室（自然・文化）、企画展示室（A・B）、美術展示室（菱田春草記念室）、プラネタリウム、市民ギャラリー、講堂、科学工作室、学習室、喫茶室
◎監理空間：会議室、館長室、学芸員室、事務集中管理室、機械室 ほか
- (8) 附属施設 日夏耿之介記念館 木造平屋造 62.94㎡
柳田國男館 木造2階建 245.40㎡

□ 上村山村文化資源保存伝習施設（通称 まつり伝承館天伯）（平成17年10月包含）

- (1) 場 所 飯田市上村753番地
- (2) 敷地面積 368.13㎡
- (3) 構 造 木造（一部鉄骨）2階建
- (4) 建築面積 463.32㎡ (延べ485.19㎡)
- (5) 総工費 110,931千円
- (6) 運営テーマ 上村の歴史・民俗・自然の姿と霜月祭を紹介し、その伝統を保存伝承する
- (7) 施設の内容
◎利用者空間：展示室、伝習室
◎管理空間：会議室、事務室、倉庫ほか
- (8) 附属施設 山村ふるさと保存館ねぎや 木造2階建 311.00㎡

□ 南信濃民芸等関係施設（通称 遠山郷土館）（平成17年10月包含）

- (1) 場 所 飯田市南信濃和田1192番地
- (2) 敷地面積 2179.98㎡
- (3) 構 造 鉄筋2階建（一部3階建）
- (4) 建築面積 574.67㎡ (延べ735.05㎡)
- (5) 総工費 156,521千円
- (6) 運営テーマ 南信濃の歴史・民俗・自然の姿と霜月祭を紹介し、その伝統を保存伝承する
- (7) 施設の内容
◎利用者空間：展示室、伝習室、体験室、休憩室兼資材室
◎管理空間：管理室、倉庫ほか

4 運営方針

(1) 開館以来の基本方針

- ① 100年後のあるべき姿を見つめながら、ハイレベルの施設づくりをめざします。
- ② 自然、人文（考古含む）、美術の3部門の特性を活かし、「伊那谷の自然と文化」への、それぞれの深い掘り下げと総合館としての横のつながりをめざします。
- ③ 「伊那谷の自然と文化」に関する研究条件を整備し、活発な学芸活動をめざします。
外部の専門家との連携を深め、多くの学識の提供を受けるとともに、市民のみならずの共同研究も行い、年報、研究紀要、伊那谷自然史論集やびはく学芸祭などで発表します。
- ④ 教育普及活動に重点をおき、学芸職員のほか、外部の専門家を招聘し、学術的に高度の内容を維持しつつ、一般に理解し易い講座を行います。
- ⑤ 所蔵者との信頼関係を深め、寄贈、寄託等を通して展示品の増加、充実に努めます。
- ⑥ 購入については、特に春草作品を優先し、緊急を要する大作については特別に対処できるよう対策を講じます。
- ⑦ 展示は、「常設展示（室）の内容の充実」、「特別展、企画展の計画的開催」、「良質な美術展覧会等の誘致開催」を目標として行っていきます。

(2) 飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プラン

美術博物館が、リニア時代において、博物館としての使命を果たしていくためには、市民のまちづくりや多様化する学びの欲求に応えていくことが必要です。そこで、平成28年度、当館の今後のあり方や事業活動における基本的な方向を示すビジョンとそれを達成するための取組を示す基本プランとを策定しました。平成29年度からプランに基づいた事業活動に取り組んでいきます。

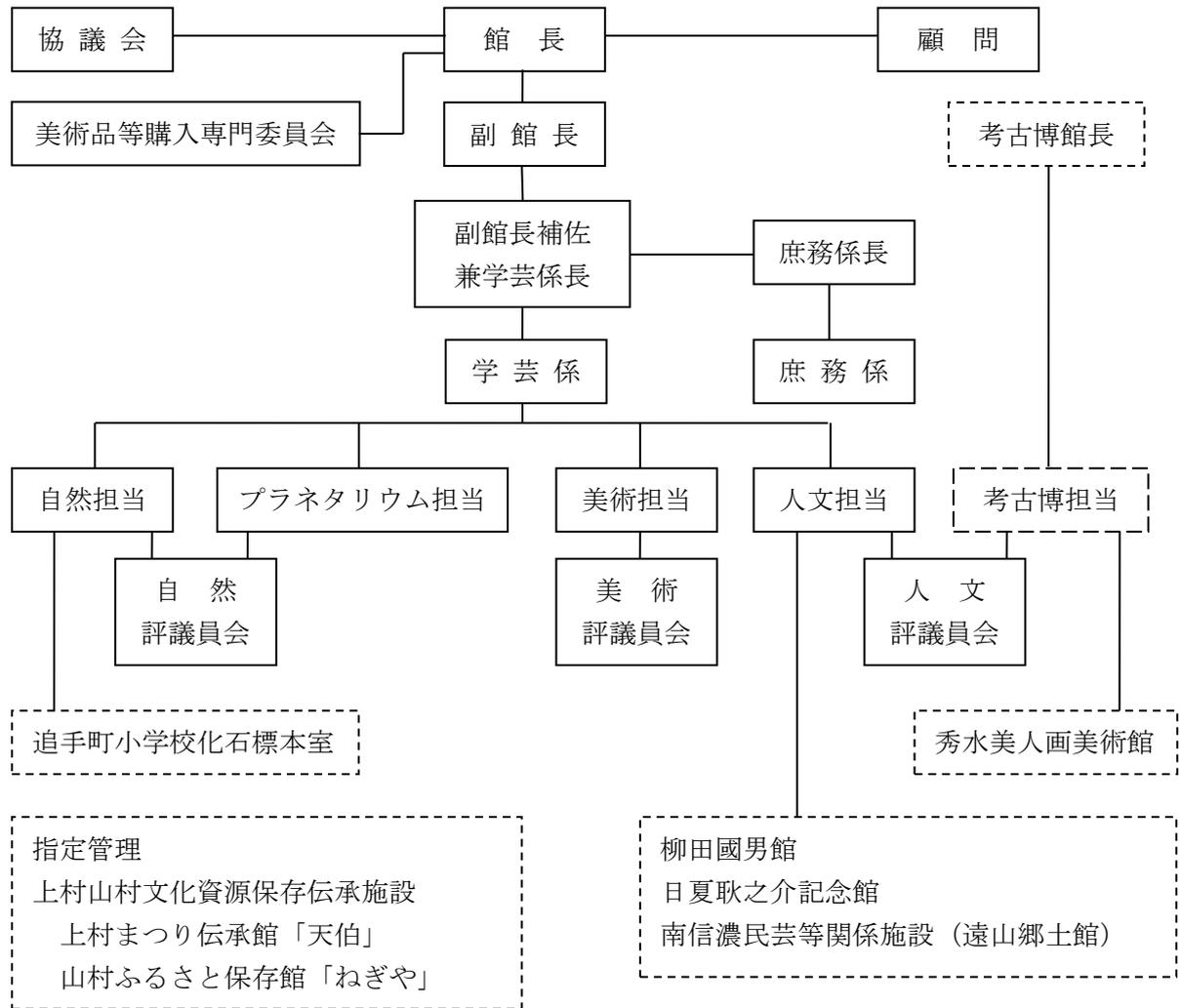
〈めざす姿〉

「リニアがもたらす大交流時代に、『飯田の価値と魅力』を発信し学びあい、未来をひらくミュージアム」

〈3つの重点目標〉

- 「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、飯田の魅力を広く紹介します。
- 「地域振興の知の拠点」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。
- 多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力の向上に寄与します。

5 運営組織（令和4年度）



6 入館者数

(1) 入館者数（令和4年度）

（単位；人）

区分	美術博物館							
	展覧会				プラネタリウム			
	個人	団体	減免	計	個人	団体	減免	計
一般	8,161	1,326	3,215	12,702	1,937	11	1,144	3,092
高校生	71	6	48	125	0	0	38	38
小中学生	615	0	312	927	88	26	254	368
小計	8,847	1,332	3,575	13,754	2,025	37	1,436	3,498
無料	14,213	0	3,270	17,483	544		1,998	2,542
計	23,060	1,332	6,845	31,237	2,569	37	3,434	6,040

(2) 入館者状況

（単位；人）

区分	美術博物館		
	展覧会	プラネタリウム	計
平成30年度	30,361	12,471	42,832
令和元年度	31,795	12,647	44,442
令和2年度	22,863	4,812	27,675
令和3年度	32,106	4,684	36,790
令和4年度	31,237	6,040	37,277

(3) 上村、南信濃関連施設入館者数 (令和4年度) (単位: 人)

区 分	上村まつり伝承館天伯				遠山郷土館			
	個人	団体	減免	計	個人	団体	減免	計
一 般	155	120		275	742	129		871
小中学生	6			6	34			34
無 料	191		77	268	1062		102	1164
計	322	120	77	549	1838	129	102	2069

(4) 入館者状況 (単位: 人)

	上村まつり伝承館天伯	遠山郷土館
平成30年度	1,033	1,349
令和元年度	863	1,210
令和2年度	607	1,199
令和3年度	249	1,974
令和4年度	596	2,069

(5) 付属施設等入館状況 (単位: 人・回)

区 分	柳田國男館	日夏耿之介 記念館	追手町小学校 化石標本室	市民ギャラリー	
				展示回数	入場者数
平成30年度	2,686	1,191	739	36	17,635
令和元年度	3,008	1,218	1,146	36	17,963
令和2年度	1,442	602	367	16	6,631
令和3年度	1,657	630	597	16	5,966
令和4年度	2,435	874	268	29	9,603

7 教育普及活動 (令和4年度)

(1) 館主催の講演会・講座・解説会・ワークショップ等

区 分	美術	人文	自然	全体	計
回 数(回)	44	45	53	1	143
出席者(人)	719	1185	990	242	3,136

(2) 地域・団体等への招聘・参加の教育普及活動

区 分	美術	人文	自然	計
回 数(回)	58	33	68	159
出席者(人)	1,360	1,041	2,427	4,828

8 刊行物一覧 (新刊)

書籍名	発行所	刊行年	仕様	部数	頒価
研究紀要 第33号(美術・人文)	美術博 物館刊	2023年	A4判 モノクロ 42頁	450部	
菱田春草カレンダー (2023年)	美術博 物館刊	2022年	A3判変形 カラー	1,000部	1,000円
飯田市美術博物館 年報第32号	美術博 物館刊	2022年	A4判 モノクロ 114頁	370部	配布のみ
伊那谷自然史論集vol.24	美術博 物館刊	2023年	A4判 モノクロ 69頁	400部	
展覧会図録「城下町飯田と飯田藩」	美術博 物館刊	2022年	A4判 カラー 110頁	800部	2000円

展覧会図録「美術と風土」	きょうと視覚文化振興財団	2023年	B5判 カラー104頁	300部	1,000円
菱田春草絵はがき	美術博物館	2022年	絵はがき	6,000枚	50円
藤本四八コレクション4	美術博物館	2022年	B5判両面カラー	3,000枚	配布のみ
菊慈童鑑賞ガイド	美術博物館	2023年	B4判両面カラー	5,000枚	配布のみ

9 令和4年度 事業報告

(1) 展示事業

〈美術〉

1) 特別展「美術と風土 –アーティストが触れた伊那谷展」

R5. 3/25～4/16 601人 (令和4年度のみ)

きょうと視覚文化振興財団との共催企画。伊那谷～東海～京阪神地域で活躍する現代作家20名について、ジャンルを問わず選抜し、伊那谷を訪れた経験をもとに作品制作を依頼し、展示する企画展。美術博物館の展示の後は辰野美術館、豊中市立文化芸術センター、橋本関雪記念館、碧南市藤井達吉現代美術館を巡回する。

2) 「第23階 現代の創造展 –南信州のアートを共に創る–」

R4. 11/20～12/11 2,944人

飯田下伊那ゆかりの作家たちによる展覧会。日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書・コンテンポラリーの7区分で、実行委員会が作家を推薦して制作を依頼し、152点を展示した。

3) 菱田春草記念室常設展示

令和4年度の菱田春草常設展示は9本を実施した。展覧会の内容は、時代ごとの画風紹介とし、年間を通じて観覧することで春草の画業をたどることができるものとした。各時代の構成は、作品の陳列のほか、未完成作品や資料類・貴重書籍などもあわせて陳列し、各時代の春草の活動を紹介した。

- ①第33期「春草と綿半野原コレクション」3/26～4/24 689人 (R4度分)
- ②第34期「美術学校での学び–春草の基礎学習–」4/29～5/29 1,121人
- ③第35期「墨の情趣–春草の水墨表現–」6/11～7/24 1,913人
- ④第36期「彩の魅力–春草の色彩表現–」7/30～8/28 1,977人
- ⑤第37期「菊慈童に迫る–春草と朦朧体–」9/3～10/2 2,633人
- ⑥第38期「故郷の足跡–春草と飯田–」10/8～11/6 3,126人
- ⑦第39期「西洋美術との出会い–春草の海外遊学–」11/12～12/11 3,106人
- ⑧第40期「画家たちの研鑽–春草と美術院–」R5. 2/11～3/12 934人
- ⑨題41期「面白味を求めて–春草の装飾表現–」3/18～4/16 731人 (R4度分)

4) 「『落葉』から『黒き猫』へ –複製画で見る晩年の名画–」

R4. 12/17～R5. 2/5 800人

菱田春草の「落葉」と「黒き猫」の複製画をもとに、未完成作品の「雨中美人」や「黒き猫」を加えて、晩年の制作活動を紹介した。親しみやすいデザインのパネルを用いるなど通常の常設展示とは趣を変え、ジュニア向けの鑑賞ガイドや雨中美人のぬり絵シートを手作りして会場に設置した。

5) コレクション展示

コレクション展示は計8本を実施。館蔵品の公開を目的とする展覧会で、須田剋太作品や洋画・版

画作品などを紹介した。なお「生誕160年 安藤耕斎」では個人から《遊天龍峽図屏風》を借用して展示に加えている。

- ①「綿半野原レコレクションの陶磁器2022 うつわの絵ごころ」1/15～5/22 1,685人(R4度分)
- ②「正宗得三郎 色彩の音楽」2/19～4/10 392人(R4度分)
- ③「農の画家 仲村進」4/23～6/19 1,784人
- ④「須田剋太と書」6/11～8/7 2,532人
- ⑤「生誕160年 安藤耕斎」8/11～9/11 1,901人
- ⑥「伊那谷の洋画、花ひらく」12/17～1/29 703人
- ⑦「藤本四八―画室訪問―」12/17～3/12 1,785人
- ⑧「版画―イロとクロ―」R5.2/4～3/12 1,052人

6) 子ども美術学校・中学生造形教室作品展

R5.1/27～2/12 421人

5月から12月までに実施した子ども美術学校、および6月から12月まで実施した中学生造形教室における制作物を紹介した展覧会。小学生63人の6種330点と中学生14人の3種42点の作品を展示した。

〈人 文〉

1) 特別展「城下町飯田と飯田藩」9/23～11/6 4,557人

令和4年は、堀親昌が飯田藩の藩主として下総烏山から飯田入りして350年、城下町の基礎を築いた京極高知の没後400年の節目にあたる。これを機に、堀家旧蔵の「青磁香炉 銘 裏千鳥」をはじめ領主に関わる資料を集め、城下町飯田のなりたちから人びとのくらしぶり、明治維新以後飯田大火から復興し城下町から近代的な防災都市へと再生した町の様子などを紹介。

城下町飯田に対する歴史的な理解を深めるだけでなく、身近な町に対する誇りや愛着を深め、風格のある町であり続けるためにこの町に今後どのように寄り添っていけばよいのか、リニア時代の到来に向けて飯田の中心市街地の来し方行く末を考える機会と位置づけた。

2) トピック展示

飯田藩および学制に関する節目の年であり、年間を通じて城下町飯田、丘の上についての理解を深められるような展示とした。

(前年度からの続き)

「元善光寺のご開帳」3/3～5/30 3,040人

令和4年春に元善光寺でご開帳が行われるのに合わせ、中世以来全国に広まった善光寺信仰とともに、元善光寺のご開帳の歴史について紹介する。前年度延期となっていた展示。

①「飯田城から追手町小学校へ」6/8～9/11 5,443人

追手町小学校は令和4年度に創立150周年を迎えた。これを機に同校を中心とする明治維新後の飯田城跡のようすにスポットをあてた。なお本展終了後、10月に行われた同校150年記念の学校解放日に、本展のパネルを展示した。

②「飯田町の学問と文化」9/13～12/11 9,215人

飯田市立中央図書館が持つ貴重資料により、学問や諸芸を通じて醸成された飯田城下のネットワークなどに注目した。

③「伊那谷を襲った近世の2つの地震-遠山地震・安政東海地震-」12/17～3/12 2,157人

江戸時代、伊那谷を襲った2つの地震 享保3年「遠山地震」、「安政元年東海地震」を取り上げ、両者を比較しつつ、被害状況、学ぶべき視点を引き出そうとした。自然科学分野の知見と人文知を統合する視点を心懸けた。

④「りんご並木と田中芳男―「りんごの町飯田」誕生―」3/15～6/14 4,384人

3) 美博小・中・高校生学校写真賞

写真賞 小学生・中学生・高校生ごとに作品を募集し、「藤本四八記念賞」「しんきん大賞」「水谷章人特別賞」「教育長賞」「館長賞」を選出して表彰。応募総数は61名95点(小学生18名29点、中学生11名16点、高校生32名50点)。

募集期間	令和4年9～11月
審査会	令和4年12月8日(木)
表彰式	令和5年1月15日(日)
作品展示	[美博展] 令和5年1月15日～2月12日 [信金本店展] 令和5年2月25日～3月12日
審査員	水谷章人氏・教育長・本館館長
協賛	飯田信用金庫

〈自然〉

1) トピック展示

自然展示室のリニューアルを機に、展示室の一角に小企画展示を行う「トピックコーナー」を設けた。今年度は、昨年度からの継続の展示1本と新規展示3本を実施した。

①「春を彩るスマレ」2/1～5/29(2/1～10閉館) 3,487人

スマレは、小さく可憐な春の花である。全国に約60種類、長野県では42種類の自生が確認されている。展示では、本州中部のスマレたちを写真や標本で紹介し、したたかに生きる小さな花の魅力にせまった。

②「夏だ!虫だ!クワガタだ!!」6/8～9/25 7,079人

長野県に生息する18種類のクワガタムシを標本とパネル紹介した。ノコギリクワガタやミヤマクワガタなどおなじみのクワガタ以外に、「これってクワガタ!?!」というような、小さくてちょっと変わったマダラクワガタやマグソクワガタも展示した。

③「トンネルの中から地中をのぞく」9/27～R5.1/29 8,452人

飯田下伊那では、三遠南信道の青崩峠トンネルやリニア新幹線に伴うトンネルなど、トンネル建設が相次いでおり、トンネル掘削に対する関心が高まっている。トンネル掘削に関する情報を提供するとともに、この地域の大規模トンネルである恵那山トンネルと矢筈トンネルから得られた岩石標本等を展示し、ふだん見ることのできない地中の世界を紹介した。

④「南アルプスのアンモナイト化石」R5.1/31～6/4 5,664人

伊那市長谷に分布する戸台層から産出したアンモナイト化石にスポットライトを当て、国内外のアンモナイト化石標本とともにその生態や進化を紹介した。戸台層から見つかるアンモナイト以外の化石(サンカクガイ・植物化石)も一部展示し、戸台層の化石を保存してきた「戸台の化石保存会」の活動を紹介した。

2) 自然展示室展示変更

①季節の自然ひとつまみパネル

令和3年1月から毎月その時期の身近な自然を紹介するパネルを、自然展示室入り口壁面に設置している。令和4年4月「花を訪れる鳥」、5月「イモムシたちの化けっぷり」、6月「アマガエルのひみつ」、7月「身近なへびの色・もよう」、8月「ライチョウの羽色」、9月「タカの渡りを見よう」、10月「ツツザキヤマジノギク」、11月「カラ類の混群がおもしろい」、12月「フユシャクガ」、令和5年1月「ロゼット」、2月「越冬中のマイマイカブリ」、3月「春を告げるアオイスミレ」

3) 追手町小学校化石標本室の公開

一般公開(5/3・4・5・21・22、7/23・24、8/8・13・14、9/17・18、10/8・9・10・22・23、11/5・6、R5.3/25・26)

※一般公開のほか、学校など団体等の希望により公開および展示解説した。

開室日数38日、観覧者数268人

(2) プラネタリウム投影事業

1) プラネタリウム投影

① 投影回数・観覧者数

投影回数440回 観覧者数8016人

② 一般投影

土・日・祝日並びに長期休暇期間に1日3回の投影をおこなった（コロナ対策で投影回数を減らした状態を継続）。4/1～5/13までコロナの感染拡大のため閉室となった。

投影番組

- ・あーしたてんきになあれ！
- ・ガイアの銀河
- ・ひかりのせかいへ
- ・ヤドカリくん、ほしをみに
- ・リラックマのプラネタリウム
- ・ぼんたのたからもの
- ・天球のものがたり
- ・こまねこのクリスマス
- ・星空の幻灯会
- ・プラネタリウムでチョコちゃんに叱られる！
- ・賢治の星座早見

③ 予約投影

平日10:00～17:00の時間帯に、幼稚園、保育園、小学校や一般の団体を対象に予約を受けて投影をおこなった。

④ 特別投影 観覧者数97人

「星座と神話を旅する ーおとめ座と春の星座ー」 4/23 中止

「野尻抱影を読む」 6/25

「星座と神話を旅する ーペルセウスと秋の星座ー」 10/22

「ぐっすりプラネタリウム」 11/23

「2023年の天文現象」 12/17

2) オリジナル番組の制作と投影

令和4年度も新規番組の制作はおこなわず、これまでに制作したオリジナル番組を一般投影や予約投影で利用した。

(3) 教育普及事業

〈全体〉

1) 夏休みイベント

① わくわく美博で夏休み 8/11

美術博物館職員等によるワークショップを計画したが、コロナ感染拡大のため実施できず。

② 4館スタンプラリー 7/16～8/31 参加者のべ242名

美術博物館、考古博物館、遠山郷土館、まつり伝承館天伯の4館を巡るスタンプラリーを実施した。

2) 「美博スタッフの研究活動紹介」

それぞれの専門分野の立場から、最近の取り組みの中で、最もアピールしたい調査研究活動の成果やその経過報告の取り組み等（教育普及活動の分析等も含む）についての要点をポスターにまとめて発表。これまで「びはく学芸祭」として開催してきたものを再編し、発表形式をポスター発表のみに改めた。ポスター発表15件。

ポスター発表 3/4

ポスター等掲示期間 2/25～3/21

【自然分野】

- 1 四方圭一郎（本館学芸員）「赤石山脈におけるオオギンスジコウモリ（鱗翅目・コウモリガ科）の分布と生息環境」
- 2 川谷文子（本館学芸員）「中新世北西太平洋域におけるマッコウクジラ科鯨類の多様化」
- 3 村松武（本館専門研究員）「遠山川支流池口川の天然ダムの地形地質と形成年代」
- 4 米山富和（本館専門研究員）「広がるジョウビタキの繁殖分布」

【人文・考古分野】

- 5 織田顕行（本館学芸員）「飯田下伊那における神宮寺の一形態-島田八幡宮神宮寺文書にみる-」
- 6 近藤大知（本館学芸員）「西浦田楽の別当と能衆」
- 7 松上清志（柳田國男記念伊那民俗学研究所）「飯田・下伊那における富士山信仰を探る」
- 8 飯田柳田國男研究会「叢書7「柳田國男『信州随筆』を読む」の刊行」
- 9 春日宇光（飯田市文化財保護活用課）「石行2号古墳出土三角板鋳留短甲について-製作技法における特質を中心に-」
- 10 原 董（伊那谷地名研究会）「万葉の里菅野荒野の現地に立つて」

【美術分野】

- 11 槇村洋介（本館学芸係長）「自由画調査のその後」
- 12 小島 淳（本館学芸員）「名品《落葉》の自己評価 -菱田春草の書簡から-」
- 13 加納向日葵（本館学芸員）「子ども美術学校・中学生造形教室における菱田春草親子鑑賞会の実践」
- 14 築島由美（菱田春草研究委員会）「《黒き猫》と《白き猫》の比較鑑賞 -小学校高学年の実践を通して-」
- 15 手塚俊尚（本館専門研究員）「松尾小学校卒業記念図画作品集にみる図画教育の変遷」

〈美 術〉

1) 美術講座「表現をひらく」

全2回の連続講座。令和4年度は「表現をひらく」をテーマに設定した。

- ①第1講「鈴木芙蓉の真景図」槇村洋介（本館学芸員） 6/19 13人
- ②第2講「素描（デッサン）と表現」滝沢具幸（本館館長） 7/18 15人

2) 春草講座

菱田春草に関する夜間講座。学芸員が講師となり、春草にまつわる話題を紹介した。

- ①第1講「菱田春草の金と銀」加納向日葵（本館学芸員） 9/7 26人
- ②第2講「菱田春草と飯田町」小島淳（本館学芸員） 10/12 16人
- ③第3講「古画と写実の研究」小島淳（本館学芸員） 11/2 18人

3) 美術鑑賞の会

夜間開催の鑑賞会。学芸員の解説の後、展覧会を鑑賞した。

- ①第36回「菱田春草《菊慈童》」小島淳・加納向日葵（本館学芸員） 9/30 13人
- ②第37回「菱田春草《夕の森》と横山大観《月あかり》」小島淳・加納向日葵（本館学芸員） 11/25 8人

4) 日本画実技講座

創画会会員の日本画家である滝沢館長による日本画講座。日本画の様々な技法を実践した。

- ・講師 滝沢具幸（本館館長）
- ・期日 R5.2/25・2/26
- ・参加 のべ15人（25日8人・26日7人）

5) 子ども美術学校

小学生4～6年生を対象とした図画工作の講座。3クラス各7回を実施し、鑑賞授業もおこなった。

- ・講師 手塚俊尚（本館専門研究員）
- ・期間 5月～12月
- ・参加 在籍63人、のべ382人 6種330点の作品を製作
- ・展示 R5.1/27～2/12（市民ギャラリー）

6) 中学生造形教室

中学生を対象とした絵画・工作の造形講座。1クラス4回を実施し、鑑賞事業もおこなった。

- ・講師 手塚俊尚（本館専門研究員）
- ・期間 6月～12月
- ・参加 14人、のべ54人 3種42点の作品を製作

〈人 文〉

1) 美博文化講座

- ①「善光寺信仰と元善光寺」織田顕行（本館学芸員）4/24 46人 ※リモート配信
- ②「山岳信仰と修験道」（伊那民俗学研究所共催事業）鈴木正崇氏（慶應義塾大学名誉教授）5/22 50人
- ③「日夏耿之介の足跡を訪ねて」（見学会）織田顕行（本館学芸員）6/12 10人
- ④「城下町人の地子米と上飯田村」前澤健氏（本館評議員）7/10 24人
- ⑤「柳田国男と飯田」近藤大知（本館学芸員）8/20 28人
- ⑥「結構なる城地」一堀家飯田藩と城下町飯田」吉田伸之（飯田市歴史研究所所長）10/15 50人
- ⑦「飯田城と城下町を歩く」（見学会）（「城下町サポーター」の皆さん）10/16 20人
- ⑧連続講座「城下町飯田と飯田藩」〔下平博行（文化財保護活用課）、伊坪達郎氏（本館評議員）、青木隆幸（本館専門研究員）〕11/3 102人 ※竜丘公民館に会場変更
- ⑨連続講座「飯田を襲った2つの地震」〔坂本正夫氏（本館客員研究員）、青木隆幸（本館専門研究員）、近藤大知（本館学芸員）〕1/22 49人
- ⑩「博物館の父 田中芳男は飯田からはばたいた」青木隆幸（本館専門研究員）3/19 73人 ※同日2回開催。

2) 特別展「城下町飯田と飯田藩」関連事業

「城下町サポーター養成講座」（全8回 定員20人）

「飯田城と城下町を歩く」（見学会）（城下町サポーター」の皆さん）10/2 20人

特別講演会「結構なる城地」一堀家飯田藩と城下町飯田」10/15（前掲）

連続講座「城下町飯田と飯田藩」11/3（前掲）

展示解説（「城下町サポーター」の皆さん）11/3、6 156人

3) ゼロから始める古文書

前年度に引き続き、歴史研究所との連携事業として実施。

1班 毎月第1水曜日

2班 毎月第3土曜日

4) 遠山郷土館学習講演会

パネル展示や遠山に関するテーマに沿って実施。

- ①「柳田国男と南信州」6/11 近藤大知（本館学芸員）8名
- ②「満州は豊かだったか？」8/29 青木隆幸（本館専門研究員）10名
- ③「竜丘小学校の児童自由画」10/29 榎村洋介（本館学芸員）10名
- ④「春を彩るスマイル探窟記」2/25 四方圭一郎（本館学芸員）12名

〈自 然〉

1) 講演会・シンポジウム

- ①「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの魅力再発見」（伊那谷自然友の会と共同開催）
高木秀雄氏（早稲田大学教授）5/8 60人（対面50人、オンライン(科学工作室)10人）

2) 自然講座 〈伊那谷自然友の会共催〉

- ①「伊那谷に大被害を与えた168年前の安政東海地震」坂本正夫氏（本館客員研究員）4/29 54人
②「海底軽石火山—浮遊しない軽石の話し」湯浅真人氏 5/29 29人
③「気候変化と文明の盛衰は関係するか？」山田 桂氏（信州大学教授）6/26 31人
④「南アルプスジオパークの観光とガイド」坂本正夫氏（本館客員研究員）7/31 <コロナ感染拡大のため中止>
⑤「伊那谷の領家帯を中心とした鉱物と岩石の魅力」手塚恒人氏（伊那谷自然友の会）8/28 30人
⑥「御岳山麓の自然と火山灰」桐生和樹氏（櫻ヶ丘中学校教諭）9/11 17人
⑦「イワツバメについての3つの謎」西 教生氏（都留文科大学非常勤講師）10/8 42人（対面22人、オンライン20人）
⑧「りんご園に生息する絶滅危惧種-アカモズの生態-」松宮裕秋氏（(株)環境アセスメントセンター）11/12 21人
⑨「冬の蛾のお話」四方圭一郎（本館学芸員）12/17 55人（対面15人、オンライン42人）
⑩「のぞいてみよう！ハエの世界」酒井淳一氏（双翅目研究家）1/21 55人（対面28人、オンライン27人）
⑪「高山植物のものがたり —花、果実、種子、芽生え ときどきふしぎ発見！—」千葉悟志氏（大町山岳博物館学芸員）2/11 32人（対面26人、オンライン6人）

3) 伊那谷自然史発表会 〈伊那谷自然友の会共催〉 3/12 33人

4) 子ども理科教室

「鳥の指は何本？ ニワトリの骨格標本を作って指の数を数えてみよう」3/11 10人

5) 子ども科学工作教室 <主催・子ども科学工作教室運営協議会> 会場 Sバード 11/12 新型コロナウイルス感染症予防対策のため現地での製作は中止 材料を参加者に配布し、 個々に工作することになった。

6) 微の世界をさぐる-電子顕微鏡公開-

昆虫の目、花粉、微化石など電子顕微鏡を使って微の世界を紹介する。

4月～11月の第1・3日曜日 24回 114人（のべ）

〈プラネタリウム〉

1) 星空観望会

- ①「春の星座と大曲線」5/28 18人
②「伝統的七夕と夏の星座」 8/4 中止
③「秋の星座と惑星」 10/1 30人
④「皆既月食」 11/8 32人
⑤「冬の星座とダイヤモンド」 2/25 24人

2) プラネタリウムまつり 3/25 150人

- ・たいようとおつきちゃん
- ・ひかりのせかいへ
- ・ワク・ドキ探検☆大宇宙
- ・宇宙～その大きさを感じてみよう～

3) 「飯田・宇宙教育」

- 「星座早見盤を使ってみよう」10/16 5人
- 「かわらんべ講座」5/20 8/19 9/10 69人
- 「スタンプラリー」

(4) 調査・研究事業

〈全体〉

1) 研究紀要33号の発刊 3月 450部

- ・小島 淳 〈資料紹介〉野本次男宛菱田春草書簡
- ・伊原壽昭・織田顕行 〈史料紹介〉松尾島田八幡宮神宮寺文書
- ・前澤 健 〈研究ノート〉宮崎三郎兵衛の追放―新出史料からみるその背景

2) 伊那谷自然史論集24号の発行 3月 400部

- ・坂本正夫・青木隆幸・近藤大知 安政東海地震(1854)における飯田城と城下の被害
- ・坂本正夫 2020年7月豪雨で発生した飯田市上村蛇洞沢の土石流
- ・村松武 寺平火山灰コレクションと伊那谷の火山灰データベース
- ・北村孔志・安藤寿男 静岡県西部中部更新統浜松層佐浜泥部層から産出したコウイカ科の甲化石
- ・手塚恒人 中部地方領家帯伊那山脈中部、白沢苦鉄質岩体から見出されたコートランダイト
- ・桐生 尊 大規模な治水事業による環境変化に伴う鳥類相の経年変化
- ・松宮裕秋・原星一・菊池隼人・秋山礼 長野県中部および南部におけるオオコノハズク *Otus semitorques* の分布
- ・四方圭一郎 長野県南箕輪村におけるハネビロエゾトンボの記録
- ・四方圭一郎 赤石山脈の亜高山帯でジムグリを撮影
- ・米山富和 長野県飯島町におけるタケクマバチの繁殖記録
- ・秋山礼・米山富和 モリアオガエルを上伊那郡飯島町で確認
- ・大村洋一・細江崇 リュウキュウサンショウクイの長野県からの初記録
- ・馬場多久男・植松永至 伊那谷におけるトラフズクの繁殖記録

3) web上での情報発信

『飯田市美術博物館研究紀要』『伊那谷自然史論集』の論文を、科学技術振興機構が運用する同種のサイト「J-stage」上に公開中。
館蔵の文書目録をホームページ上に公開中。

〈美術〉

1) 菱田春草および春草に関わる作家

- ①菱田春草作品の調査研究
- ②菱田春草未完成作品の調査研究
- ③菱田春草関連資料の調査研究

成果発表

i 美博スタッフの研究活動紹介(ポスター発表)

「名品《落葉》の自己評価―菱田春草の書簡から―」小島淳(本館学芸員)

ii 研究紀要

「資料紹介 野本次男宛菱田春草書簡」小島淳（本館学芸員）

iii その他

「菱田春草の画風変遷」『伊那』令和4年6月号 小島淳（本館学芸員）

2) 郷土関連の美術

- ①自由画教育についての調査研究
- ②農民美術についての調査研究
- ③郷土近世南画家の研究

成果発表

i 美博スタッフの研究活動紹介（ポスター発表）

「自由画調査のその後－自由画以前の長野県の図画教育の展開」槇村洋介（本館学芸員）

「松尾小学校卒業記念図画作品集にみる図画教育の変遷」手塚俊尚（本館専門研究員）

ii その他

「作家推薦文 蜂谷充志・山田純嗣」『美術と風土－アーティストが触れた伊那谷展図録』槇村洋介（本館学芸員）

3) 鑑賞教育

- ①小中学校と連携した春草作品の鑑賞教育の実践研究

成果発表

i 美博スタッフの研究活動紹介（ポスター発表）

「子ども美術学校・中学生造形教室における菱田春草親子鑑賞会の実践」加納向日葵（本館学芸員）

4) 造形教育

- ①小中学生・保育園児に対する造形教育の教材研究

〈人 文〉

1) 展覧会関連調査

特別展「城下町飯田と飯田藩」関連調査

脇坂家関連資料：龍野歴史文化資料館（兵庫県たつの市）

堀家関連資料：遠山記念館（埼玉県川島町）、徳川美術館（愛知県名古屋市）

飯田藩関連資料：歴史研究所、考古博物館、開善寺（飯田市上川路）、市内個人宅

トピック展示関連調査

追手町小学校、麻績史料館

2) 社寺調査

市内：今宮郊戸八幡宮（飯田市今宮町）、久米寺跡（飯田市久米）

郡外：「諏訪神仏プロジェクト」関連調査（諏訪市、茅野市、下諏訪町、岡谷市）

3) 民俗調査

- ①上郷飯沼の民俗調査 *柳田國男記念伊那民俗学研究所との共同調査
令和5年度の報告書刊行をめざして調査とまとめを行う。

- ②民俗映像の編集・整理

4) その他

家屋解体等にともなう所蔵品等調査

・個人宅（市内4箇所、大鹿村1箇所）

〈自 然〉

1) 学芸員・専門研究員による調査研究

- ①「遠山川流域の巨大崩壊と天然ダム」地域：飯田市南信濃

- ②「長野県・新潟県におけるクジラ化石の分類学的検討」
- ③「南アルプス高山帯の蛾類相」地域：聖岳、上河内岳、茶臼岳
- ④「天竜川における鳥類標識調査」地域：飯田市川路

2) 市民の協力を得た地域史研究事業

- ①天竜川における鳥類標識調査
- ②鳥類ほ乳類の剥製・骨格標本作成

〈プラネタリウム〉

1) 連絡活動・研修会

- ・長野県プラネタリウム連絡協議会研修会 5/24（大町市）、11/9（長野市）
- ・日本プラネタリウム協議会総会・研修会 6/6-8 オンライン開催

（5）資料収集・保管事業

部門ごとに資料の購入や寄贈・移管受入、寄託を受けた。

1) 寄 贈

〈美 術〉

- ・菱田春草《鶴》 1幅
- ・佐竹蓬平《柘榴小禽図》 1幅
- ・大名行列人形 1組
- ・関龍夫《ぼたん》 1面

〈人 文〉

- ・飯田藩士和田家資料 23点

〈自 然〉

- ・イヌ属頭蓋骨 1点

2) 購 入

〈美 術〉

- ・『国華』27～285号のうち 53冊
- ・『日本美術』14号～177号のうち 119冊
- ・『アトリエ』1巻-4号～10号、15巻4号、17巻12号 9冊

〈人 文〉

- ・「明治四十四年九月十七日長姫神社奉納煙火番組」 1枚

3) 資料の修復

〈美 術〉

①表装

- ・鈴木芙蓉《東方朔図》 1幅
- ・唐沢湖城《百童之図》 1幅
- ・唐沢湖城《宮楽之図》 1巻

4) 館蔵資料の登録・データベース化

〈自 然〉

- ・化石 2点
- ・鳥類剥製・骨格 21点
- ・ほ乳類剥製・骨格 9点

5) 写真・映像資料のデジタル化および編集

〈人 文〉

- ・遠山霜月祭記録映像マスターテープのデジタルデータ化（1地区分）

6) 資料貸し出し

〈美 術〉

- ・佐竹蓬平《太真王夫人》、佐竹蓬平《山水図》、鈴木芙蓉《東方朔図》、鈴木芙蓉《雨中訪友図》
展示「佐竹蓬平・鈴木芙蓉を愛する会展示」（飯田市立伊賀良公民館、R4.11/13）
- ・滝沢具幸《凍林図》
企画展「滝沢具幸水墨画展」（長野県飯田創造館、R5.1/26～2/7）

〈人 文〉

- ・定紋入敷盤、什器10点、『御蔵書元牒』（第巻号～四号）（寄託） 4点
特別展「煌びやかなお嫁入りー信州の大名道具ー」（長野市立博物館9/23～11/20）

〈自 然〉

- ・茨城県産トクナガジカ化石（寄託標本）、キュウシュウサンバー全身骨格化石模型（レプリカ）、シカマシフゾウ化石産状模型（レプリカ）各1点
企画展「角の魅惑ー日本のシカ化石とニホンジカー」（ふじのくに地球環境史ミュージアム12/3～5/7）

7) 他機関・学習・研究団体等への協力

①教育機関への支援

〈全 体〉

- ・学芸員実習の受け入れ

〈美 術〉

- ・下伊那教育会菱田春草研究委員会
- ・下伊那教育会図工美術教育研究会
- ・小中学校との菱田春草鑑賞授業の実施（丸山小・松尾小・竜峡中など）
- ・高校・大学との鑑賞授業の実施（風越高校・飯田女子短大）

〈人 文〉

- ・小中学校総合学習（旭ヶ丘中学校、鼎小学校、丸山小学校、上久堅小学校、上村小学校）
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力（橋北公民館、東野公民館）

〈自 然〉

- ・天竜川総合学習館かわらんべ講座への協力
- ・子どもの森公園観察会への協力
- ・小中学校への協力（竜丘小学校、追手町小学校、飯田西中学校、旭ヶ丘中学校など）
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力（川路、鼎、伊賀良など）
- ・保育園・幼稚園への協力

〈プラネタリウム〉

- ・天竜川総合学習館かわらんべ講座への協力
- ・小中学校への協力（浜井場小学校など）
- ・公民館・自治振興センターへの活動協力（千代、南信濃など）
- ・おもしろ科学工房への協力

②各種団体

〈全体〉

伊那谷研究団体協議会

〈美術〉

春草会、春草講演を愛する会、佐竹蓬平・鈴木芙蓉を愛する会、飯田鉄斎愛好会、竜丘地区自治会の自由画保存顕彰事業、松尾小学校卒業生絵画等作品の保存に関わる会議、伊賀良公民館原田泰治追悼展、宮田村文化財保存活用地域計画作成協議会、天龍村なんでも館展示更新

〈人文〉

【事務局、委員等】

伊那谷研究団体協議会、柳田國男記念伊那民俗学研究所、南信州民俗芸能継承推進協議会事務局、遠山常民大学、遠山ガイドの会、城下町サポーター、日本山岳修験学会飯田学術大会実行委員会事務局、「旧小笠原家書院建立400周年記念行事」プロジェクト委員会、平和祈念館展示検討委員会、長野県立歴史館資料委員、諏訪市文化財専門審議会、諏訪神仏プロジェクト顧問

〈自然〉

伊那谷自然友の会、はなのき友の会、松本むしの会、金属・鉱物の会、下伊那教育会、長野県ジオパーク協議会、南アルプス自然環境保全活用連携協議会など

8) 関連事業

〈美術〉

- ・春草マンスリーと春草ウィーク

菱田春草の誕生日（9月21日）と命日（9月16日）のある9月を春草に親しみ学ぶ月とし、教育委員会で幾つかの事業をおこなった。また誕生日と命日に近い1週間（9月13日～19日）を春草ウィークとして美術博物館の観覧料を無料とした。

【教育委員会の取り組み】

- ①プラネタリウム特別投影 春草番組無料投影（美術博物館）
 - ②春草ウォーキング（生涯学習・スポーツ課）
 - ③春草語り部養成講座（橋北公民館）
 - ④「春草かるた」の作成（橋北公民館）
- ・「税に関するポスター」審査への協力（飯田市税務課）
 - ・「障がい者文化芸術作品展」審査への協力（社会福祉協議会）
 - ・「防犯ポスター」審査への協力（飯田警察署）

〈人文〉

- ・繋がり創出による南信州民俗芸能継承推進協事業（南信州民俗芸能継承推進協議会）
- ・堀親昌飯田入部350年記念事業（長姫神社）
- ・山本まちづくり委員会
- ・飯伊シニア大学

【飯田市の取り組み】

- ・「ゼロから始める古文書」（歴史研究所）
- ・遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ（企画課）
- ・IIDA学輪大学（企画課）
- ・伊賀良笠松大学（伊賀良公民館）
- ・南信州観光公社ツアー（飯田市観光課）

〈自 然〉

- ・南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの取り組み（環境課ほか）
- ・南アルプスユネスコエコパークの取り組み（環境課ほか）
- ・飯田市環境チェッカー（環境課）
- ・飯田市の環境保全対策（環境課）
- ・飯田市の防災対策（交通防災課）
- ・遠山郷エコパーク・ジオパーク フィールドスタディー（大学誘致連携推進室）
- ・IIDA学輪大学（大学誘致連携推進室）